

# 空き家再生プロジェクトを通じた集落活性化に関する研究

奈良県立大学地域創造学部  
准教授 神吉優美

## 1. はじめに

当研究のフィールドは奈良県十津川村谷瀬集落である。2011年の紀伊半島大水害で甚大な被害をこうむった十津川村は、元々、人口減少・少子高齢化・産業停滞等の問題を抱えていた地域であり、災害を機に、新たな村おこしに取り組んでいる。そして、その一環として「新集落づくりに向けた集落再生プロジェクト」が始動し、モデル集落として高森集落と谷瀬集落が選定された。

## 2. 谷瀬集落の概要

谷瀬集落は、西坊・中切・上地・平地の4つの小字からなる。年間14万人の観光客が訪れる「谷瀬の吊り橋」のたもとの茶屋を集落の人たちで運営し、秋の松茸採りと出荷、冬の「ゆうべし」づくり等をすべて共同で行い、神事等の村の行事や新年会・敬老会等への出席率が高い等、村内でもつながりを大切にしている集落として有名である。

## 3. 谷瀬集落における「新集落づくりに向けた集落再生プロジェクト」

月に1回、＜寄合＞（住民ワークショップ）が開催され、集落で暮らす人々、コンサルタント、そして奈良県立大学（以下、県大）・奈良女子大学（以下、奈良女）の教員・学生が話し合っ村づくりに取り組んでいる。

2015年度に県大と奈良女関わった活動は、①耕作放棄地を活用して酒米を育てて酒を仕込む「日本酒プロジェクト」、②耕作放棄地を活用して蕎麦を育てる「蕎麦プロジェクト」、③集落の中心に位置する空き家の活用方法を検討し実際に活用してみる「空き家再生プロジェクト」である。この内、本稿では空き家再生プロジェクトについて報告する。

## 4. 対象空き家の特徴

対象となる空き家は、集落の中間に位置し、50年近く空き家の状態で放置されていた民家である。この民家は、石垣の上の板塀、谷を見下ろす建物配置、平屋建て、平入り、土間・だいどこ・なかのま・ざしき・なんど・えんで（縁側）で構成される間取り、そして十津川の重要な景観要素であるスバルノフキオロシ（屋根の妻側に板を張って妻側の壁を風雨から守る）など、十津川らしい様式をもつ住宅である（写真1・図1）。



写真1 建物外観

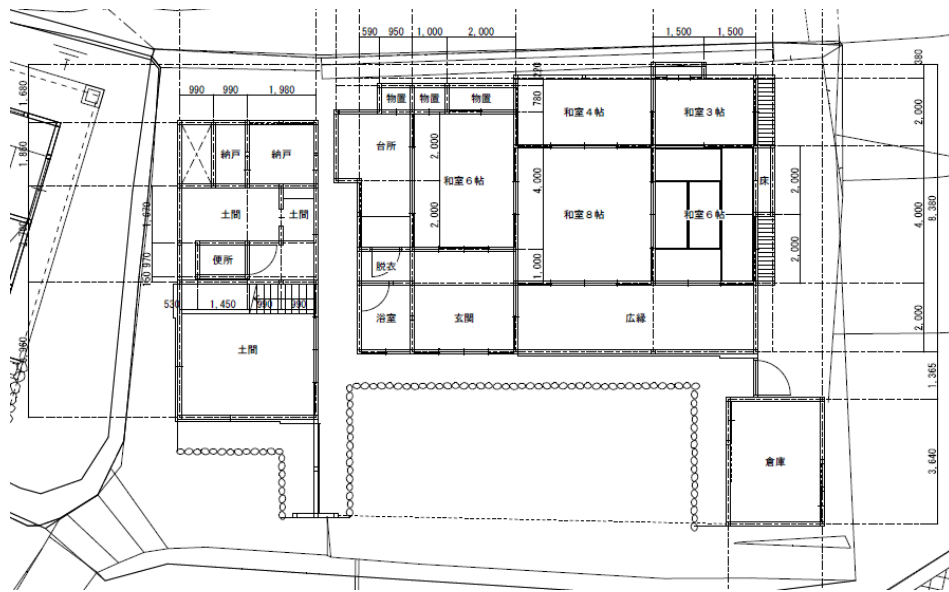


図1 平面図

#### 4. 空き家再生に向けた活動

<2015年6月14日>

集落の人たちと教員・学生とで家を掃除して庭の草を刈った。参加者から、「こんなに汚れているとは想像していなかった。」「学生がよく頑張ってくれて感謝。」「えんげ(縁側)に座布団敷いてお茶飲んだら気持ちよさそう。」という声が聞かれた。



写真2 家の掃除



写真3 家の掃除



写真4 襖の中から昭和初期の新聞



写真5 庭の草刈り

<2015年6月15日>

寄合を開催して、空き家の名称と再生方法について話し合った。名称は、「こやすば」（昔から長い道のりで途中で休むところを休み場、ちょっと休むところを「小休場」（こやすばと呼んでいた）に決定。「こやすば」をカフェとして活用する方向で検討。どのようなカフェにしたいのかについて検討した結果を以下にまとめる。

○機能について⇒「カフェ」は地元の「サロン」に

- ・地元のことをしゃべる人がいるといい。
- ・散歩道の間なので、涼んでもらう場所に。
- ・来てくれる人がゆったりもいいが、おばあちゃんたちがちょっと寄れる、サロンに使えるといい。
- ・サロンと「カフェ」をごっちゃにして。地元の人と一杯話せるような場に。
- ・ここの寄合には出られないが、村のために何かしたいと思っている人が「カフェ」に来ればいい。カフェは地元のサロン。
- ・「カフェ」は説明と試食の場、「茶屋」は買う場。
- ・いつか移住に繋がるように。「散歩道」→「カフェ」→「ゆっくり体験」→「空き家利用」と徐々にファンを育てていくような場に。
- ・竹を編む人が作業していたりしていたら、話ができる。
- ・おしゃべりできる場所にしたい。谷瀬のゆっくりな生活に混ざれるように。

○メニューについて⇒地元のをまずは少し

- ・梅干しとお茶で十分。ここのコンセプト「ゆっくり」にぴったり。
- ・カンパならお金を取れる。
- ・散歩道は歩いても長いし暑い。かき氷やアイスがあればいい。アイスは番茶のアイスとか、ヤギのミルクのアイスとか。
- ・胡麻豆腐がいい。身体にいいものをちょこっと。
- ・小さく刻んだ高菜とゆうべしを合わせて、ちょこっと出したら
- ・（谷瀬の特産品である）高菜とゆうべしにこだわった方がいい。
- ・全部その季節に集落でとれるものを、集落から買い上げてだす。
- ・ご飯に高菜がつくといい。景色を見ながら美味しいものを。カレーもいい。
- ・塩気がほしいので、普段、集落の人が食べているものを。らっきょなど。
- ・縁側でかき氷があるといい。柚子のシロップをかけて。
- ・地元の物を。トマト一つでも。
- ・お茶も谷瀬のお茶で。
- ・入り口手前の柿が渋柿。熟したら自分でとって食べるのも楽しい。紅葉の柿の葉寿司も作りたい。

○設備について⇒トイレ・ヤギ・パラソル

- ・トイレが綺麗なので、「ゆっくり散歩道」のトイレとして使いたい。一方、昔のトイレに石が入れられて状態でまだあり、はまりそう。古いトイレに行かないように閉じないといけない。
- ・目の前にヤギがいるといい。動くものがそこにいると癒される。
- ・ヤギで人は安らぐ。観光客と交流できるきっかけになる。やってみたいが生き物

なので管理が大変ではないか。

- ・木のベンチとテーブルがあるといい。
- ・水車電力で、扇風機を回せないか。
- ・脇の縁側もきれいにしたら、そこでぼーっとするのもいい。風も涼しそう。

○展示について⇒建物・暮らしも展示物

- ・古道具を並べてみたい。
- ・床の間は出てきたまま、物を動かさずにそのまま生活ミュージアムになる。
- ・「芋穴」そのものも展示物。
- ・今のトイレがあるところは昔の牛小屋だった。そのことも展示になる。
- ・昔の家に入って見たような感じの展示にするといい。
- ・ゆうべしをつくるどころの写真など飾りたい。
- ・吊り橋、谷瀬のストーリー、生き方、物語が必要。盆踊りの紹介とか、暮らしを伝えたい。移住のパンフなどもおこう。
- ・黒い壁に、古着などかけてもいい。
- ・「えんげ」（縁側）など、間取りと部屋の呼び方を、どこかに貼ってここの特色ある建て方を知ってもらおう。
- ・築何年の伝統民家と分かるように。建築に興味のある人は来る。

<2015年7月11日>

集落の人たちと教員・学生とで、障子を張り替え、倉庫を片付け、資料として使用できる農機具や生活道具の選別を行った。



写真4 障子の張り替え



写真5 障子の張り替え



写真6 倉庫の片付け



写真7 昔の農機具

<2015年9月21日>

休憩所「こやすば」として一日限定でオープンした。ゆっくり散歩道を歩く観光客に声をかけて、「こやすば」に入ってもらい、谷瀬集落でつくったゆうべしと高菜漬けとお茶を無料で提供してゆっくり休んでもらった。1日で80人の来場があった。



写真8 副総代手作りの看板



写真9 縁側で腰掛けて休憩



写真10 観光客と集落の人とのおしゃべり



写真11 子ども達も縁側でまったり

<2015年9月21日>

「こやすば」オープンの日夕方、寄合を開催し、活動を振り返った。

#### ○接客・試食

- ・連休中なのでキャンプの人たちが10時にはゆっくり散歩道を歩いていた。散歩道を歩く人が多いのは10時~11時。行く時に声をかけると100%入ってくれた。
- ・集落の人はトークの練習が必要。谷瀬の説明や案内ができるように。
- ・呼び込みや会話が上手になりたい。
- ・これまではゆっくり散歩道を歩く人とゆっくりお話しできなかったが、今回はお話しできてよかった。道標への評価などをいただきうれしかった。
- ・お茶などをさっと出すのが大変だった。
- ・ゆうべしのイメージが違ったと子どもから言われた。甘い物がでてくると思ったらしい。
- ・試食の量は少なくていい。残す人がいた。特に子ども。
- ・お茶を2回沸かして公会堂から運ぶのが大変だった。
- ・生の竹で器を作って出したのがよかった。自分で作ってもらってもいいかも。

#### ○販売

- ・喉が渴いたと言う子どもが多かった。ここでジュースを売るといいだろう。

- ・ここでゆうべしや高菜漬けを売っていたら、試食した人が必ず買ってくれたのに。
- ・お金をとる方法を考えなくては。個人の責任でフリーマーケット形式で何かを売れるようにしたい。
- ・カンパを入れてとは言い出しにくかった。

#### ○情報発信

- ・茶屋で「こやすば」の宣伝をした。
- ・谷瀬の四季を紹介する写真展示などが欲しい。
- ・建物を説明すると皆が関心を示した。展示がほしい。
- ・ゆうべしの作り方を紹介する展示もほしい。
- ・谷瀬を紹介する冊子があれば、それを見ながらお話しできる。
- ・今回来てくれた人たちに次の催しも知らせたい。連絡先を今後とっていきたい。
- ・村の人たちが「こやすば」やゆっくり散歩道のことを知らない。村内でもPRする必要がある。

#### ○建物・ハード

- ・柿が落ちて匂った。蜂がたかっていた。でも、柿の木の風情はいい。
- ・埃が落ちてきて、急遽掃除した。
- ・午前中は暑くて縁側に座れなかった。そこで座敷にあがる人が増えて、座敷においてある鹿の剥製に子ども達が喜んでた。
- ・建物はこぎれいにしないほうがいい。
- ・9月3日に拭き掃除をしたのに、汚れていた。→来た人に掃除してもらってもいいかも。
- ・古い道具を飾ってもいい。
- ・近くに花畑をつくるといい。
- ・縁側が高く、室内に上がるのが大変。棟梁に相談して、縁台を設置する。
- ・座敷にはござを敷きたい。

#### ○今後について

- ・谷瀬を知ったよそものが、さらによそものをひっぱりてくる必要がある。
- ・どこまでよそものが入ってくるのを受入れるのかの調整が必要。

### 5. 今後の「こやすば」の活用予定

2016年5月のゴールデンウィークに、集落の人たちによるイベントを開催予定である。具体的には、マッサージ、絵はがき教室、Nケージ展、パッチワーク展などである。イベントはfacebook ページ「谷瀬の吊り橋」や茶屋にポスターを掲示してPRする予定である。